

JAPAN MONKEY CENTRE

F A X 送 付 状

公益財団法人日本モンキーセンター

送信先 報道各位

送信枚数 本紙を含めて 7枚

送信日 2016年 4月 26日

金色の赤ちゃんも誕生！ 「申年生まれ」のベビーラッシュです！

今年も動物たちのベビーラッシュの季節がやってきました！
今年には申年です。今年1月1日以降に生まれた「申年生まれ」の赤ちゃんは、
いまのところ7種13頭（4月25日現在）です。

今年には、赤ちゃんの時だけ金色のフランソワルトン（オトナは黒色）や、
赤ちゃんの時だけ真っ白のアビシニアコロブス（オトナは黒と白）もうまれました。
どちらの赤ちゃんも母親に抱かれ、群れの中でくらししていますので、他の個体との毛色の
違いがはっきりとわかり、とても目立ちます。生後約3ヵ月でオトナと同じ色に変わって
いきますので、期間限定の姿をぜひご覧ください

他にも、春に出産シーズンを迎えるヤクニホンザルは5頭、ワオキツネザルは2頭の赤
ちゃんがうまれています。

ヒトを含む多くの霊長類は1年中出産可能ですが、ニホンザルやワオキツネザルなど季節
がある地域にくらす霊長類は、春から夏に出産シーズンを迎えます。そのためモンキーセ
ンターでも、1年中出産はありますが、特に春から夏がベビーラッシュとなるのです。

母親が肩身離さず赤ちゃんを抱いて子育てする種、父親も子育てに参加する種、群れの
メスたちも赤ちゃんを抱く種など、子育ての方法もそれぞれです。モンキーセンターでは
動物たちが本来の子育ての行動を発現できるように、また次の世代が子育てを学ぶ機会を
もてるように、飼育員、獣医師、研究者などが協力してサポートしています。

ゴールデンウィークに向けた話題として、ぜひご紹介いただければ幸いです。

「申年生まれ」の赤ちゃん一覧（4月25日現在）

種名	赤ちゃんの頭数	誕生日	飼育場所
クロミミマーモセット	2頭（双子）	2月29日	南米館
パタスモンキー	1頭	3月1日	アフリカ館
ワオキツネザル	2頭	3月9日、4月6日	Waoランド
アビシニアコロブス	1頭	3月22日	アフリカ館
ヤクニホンザル	5頭	3月28日、4月8日、 4月14日、4月15日 4月25日	モンキーバレイ
シシオザル	1頭	4月18日	アジア館
フランソワルトン	1頭	4月22日	アジア館

赤ちゃんたちの写真（一部）



フランソワルトンの母子

4月22日生まれ

赤ちゃんの体毛は、生後約3ヵ月だけ明るいオレンジ色（金色）です。生後半年くらいで、ほとんどオトナと変わらない色になります。

カラーでお見せできないのが残念です。



アビシニアコロブスの母子

3月22日生まれ

赤ちゃんの体毛は、生後約3ヵ月だけ全身真っ白です。生後半年くらいで、ほとんどオトナと変わらない色になります。同じ群れに昨年7月12日生まれのコドモがいるので、見比べることができます。



ヤクニホンザルの赤ちゃん
3月28日、4月8日、14日、15日
25日生まれ（現在5頭）



ワオキツネザルの赤ちゃん
3月9日生まれ、4月6日生まれ
（現在2頭）



パタスモンキーの赤ちゃん
3月1日生まれ



**クロミミマーモセットの
双子の赤ちゃん**
2月29日生まれ

赤ちゃんたちの取材に来ていただくことも可能です（動物の状態により変更することがあります）。また、上記写真などをご提供することもできます。

取材等のお問い合わせは、以下までお願いいたします。

お問い合わせ先

公益財団法人日本モンキーセンター 〒484-0081 愛知県犬山市犬山官林 26

TEL : 0568-61-2327 FAX : 0568-62-6823 メール : info@j-monkey.jp

担当 : 学術部 高野、赤見、新宅、綿貫、早川、大淵、江藤

【参考資料：申年生まれの赤ちゃんがいる7種の霊長類の詳細情報】

クロミマーモセット



英名 Black-eared Marmoset

学名 *Callithrix penicillata*

CITES II

IUCN Least Concern

分布



ブラジル南東部

- ・額に白い毛が生え、耳に黒い房毛がある。 ・背中と尾に縞がある。
- ・二次林などにすむ。 ・樹液、果実、昆虫などを食べる。

パタスモンキー



英名 Patas monkey

学名 *Erythrocebus patas*

CITES II

IUCN Least Concern

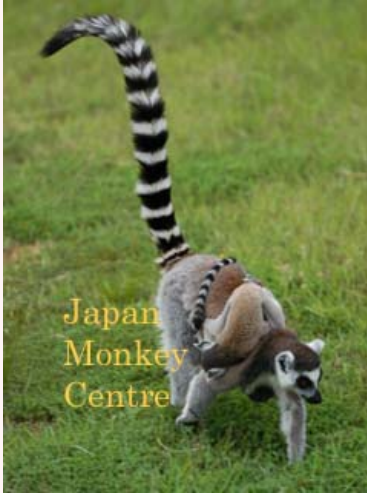
分布



西アフリカからエチオピア、ケニアにかけてのサハラ以南のサバンナ地帯

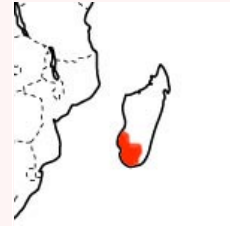
- ・サバンナを駆ける、世界最速のサル。最高時速約 55km で走るといわれる。
- ・腕や脚がすらりと長く、走行に適応した形態をしている。
- ・単雄複雌の社会構造をもつ。
- ・広い遊動域をもち、果実、種、草、昆虫など、さまざまなものを食べる。

ワオキツネザル



英名	Ring-tailed Lemur
学名	<i>Lemur catta</i>
CITES	I
IUCN	Endangered

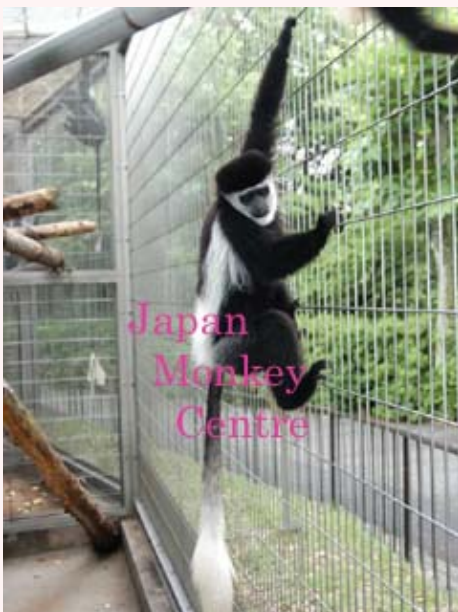
分布



マダガスカル島南部

- 顔は白く、目の周囲と鼻が黒い。耳にも白い毛が生える。
- 尾は白と黒の輪が交互に連なっている。名前の「ワオ」は「輪尾」から。
- 種小名の「catta」ネコの意で、ネコのような鳴き声から付けられた。
- 代謝が低く、気温が低いときには日光浴をして体を温める。
- メス優位の複雄複雌の群れをつくる。オスが群れを移籍する。
- 前腕の内側に分泌腺がある。これで匂いづけをする他、長い尾に匂いをつけ、まっすぐ立てて振ることで自らの存在をアピールする。
- オス間、メス間それぞれに順位があり、匂いによる闘争やけんかによって変動する。
- 前肢にくらべて後肢が発達しており、跳躍を得意とする。

アビシニアコロブス



英名	Abyssinian Colobus
学名	<i>Colobus guereza</i>
CITES	II
IUCN	Least Concern

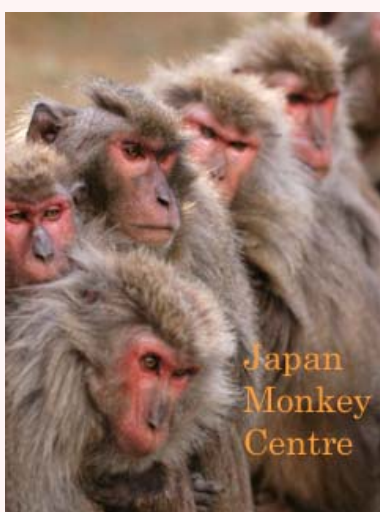
分布



ナイジェリアからエチオピアにかけてと、ケニア、タンザニア

- 体は全体に黒く、顔の周囲、尾の先と、背中を縁取るように白い毛が生える。白い毛の生え方は地域によってバリエーションがある。
- 生まれたばかりの赤ん坊は真っ白で、約3か月でおとなと同じような配色になる。
- 手の第1指を喪失している。
- 主に木の葉を食べる。果実なども食べる。
- 木の葉を消化するため、胃が3室に分かれており、前胃で嫌気性細菌によってセルロースを分解するようになっている。
- 樹上四足性のサルで、他の樹上四足性のサルにくらべ、跳躍することが多い。

ヤクニホンザル



英名	Japanese Yaku-Macaque
学名	<i>Macaca fuscata yakui</i>
CITES	II
IUCN	Least Concern

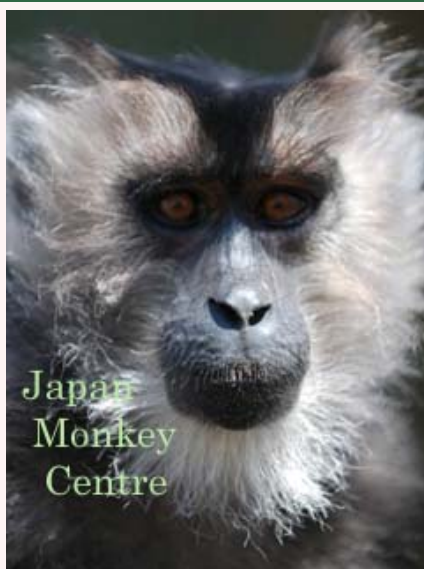
分布



屋久島

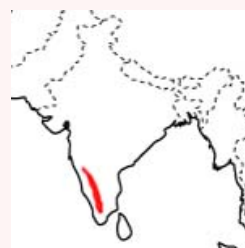
- 世界遺産の島、屋久島に生息するニホンザルの亜種。
- 本土のニホンザルにくらべると、やや小型で体毛が長く、荒い。

シシオザル



英名	Lion-tailed Macaque
学名	<i>Macaca silenus</i>
CITES	I
IUCN	Endangered

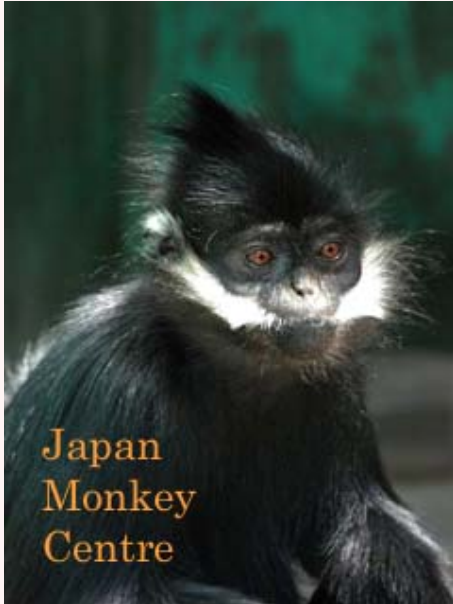
分布



インド南部

- 尾の先端がライオンのように房になっているので、この名がある。
- 体や顔は黒く、顔の周りに灰色のたてがみがある。

フランソワルトン



英名	Francois' Lutong
学名	<i>Trachypithecus francoisi</i>
CITES	II
IUCN	Endangered

分布



中国、ベトナム、ラオスの一部

- 全身が黒く、頭頂部の毛がまっすぐ立っている。耳から鼻にかけて白い毛が生えている。
- 木の葉を主に食べる。
- 野生下での生態については分かっていないことが多い。